



オブジェクト トラッキングの設定

この章では、Cisco NX-OS スイッチ上でオブジェクト トラッキングを設定する方法について説明します。

この章では、次の内容について説明します。

- 「オブジェクト トラッキング情報」 (P.19-1)
- 「オブジェクト トラッキングのライセンス要件」 (P.19-3)
- 「注意事項および制約事項」 (P.19-3)
- 「デフォルト設定」 (P.19-3)
- 「オブジェクト トラッキングの設定」 (P.19-3)
- 「オブジェクト トラッキングの設定確認」 (P.19-13)
- 「オブジェクト トラッキングの設定例」 (P.19-13)
- 「関連資料」 (P.19-14)
- 「その他の関連資料」 (P.19-14)
- 「オブジェクト トラッキング機能の履歴」 (P.19-14)

オブジェクト トラッキング情報

オブジェクト トラッキングを使用すると、インターフェイス ライン プロトコル ステート、IP ルーティング、ルート到達可能性などの、スイッチ上の特定のオブジェクトをトラッキングし、トラッキング対象オブジェクトのステートが変化したときに対処できます。この機能により、ネットワークの可用性が向上し、オブジェクトがダウン状態となった場合の回復時間が短縮されます。

ここでは、次の内容について説明します。

- 「オブジェクト トラッキングの概要」 (P.19-2)
- 「オブジェクト トラッキング リスト」 (P.19-2)
- 「仮想化のサポート」 (P.19-3)

オブジェクト トラッキングの概要

オブジェクト トラッキング機能を使用すると、トラッキング対象オブジェクトを作成できます。複数のクライアントでこのオブジェクトを使用し、トラッキング対象オブジェクトが変化したときのクライアント動作を変更できます。複数のクライアントがそれぞれの関心をトラッキング プロセスに登録し、同じオブジェクトをトラッキングし、オブジェクトのステートが変化したときに異なるアクションを実行します。

クライアントには次の機能が含まれます。

- HSRP (ホットスタンバイ冗長プロトコル)
- VRRP (仮想ルータ冗長プロトコル)

オブジェクト トラッキングは、トラッキング対象オブジェクトのステータスをモニタし、変更があった場合は関係クライアントに伝えます。各トラッキング対象オブジェクトは、一意の番号で識別します。クライアントはこの番号を使用して、トラッキング対象オブジェクトのステートが変化したときに実行するアクションを設定できます。

Cisco NX-OS がトラッキングするオブジェクト タイプは、次のとおりです。

- インターフェイス ライン プロトコル ステート: ライン プロトコル ステートがアップまたはダウンかどうかをトラッキングします。
- インターフェイス IP ルーティング ステート: インターフェイスに IPv4 アドレスが設定されていて、IPv4 ルーティングがイネーブルでアクティブかどうかをトラッキングします。
- IP ルート到達可能性: IPv4 ルートが存在していて、ローカル スイッチから到達可能かどうかをトラッキングします。

たとえば、HSRP を設定すると、冗長ルータの 1 つをネットワークの他の部分に接続するインターフェイスのライン プロトコルをトラッキングできます。そのリンクがダウンした場合、影響のある HSRP ルータのプライオリティを変更できます。

オブジェクト トラッキング リスト

オブジェクト トラッキング リストを使用すると、複数のオブジェクトのステートをまとめてトラッキングできます。オブジェクト トラッキング リストは次の機能をサポートします。

- ブール「and」機能: トラッキング リスト オブジェクトがアップになるには、トラッキング リスト内に定義された各オブジェクトがアップ状態である必要があります。
- ブール「or」機能: トラッキング対象オブジェクトがアップになるには、トラッキング リスト内に定義された少なくとも 1 つのオブジェクトがアップ状態である必要があります。
- しきい値パーセンテージ: トラッキング対象リストに含まれるアップ オブジェクトのパーセンテージが、アップ状態になるトラッキング リストの設定されたアップしきい値を上回っている必要があります。トラッキング対象リストに含まれるダウン オブジェクトのパーセンテージが設定されたトラッキング リストのダウンしきい値を上回っている場合、トラッキング対象リストはダウンとしてマークされます。
- しきい値の重み: トラッキング対象リスト内の各オブジェクトに重み値を割り当て、トラッキング リストに重みしきい値を割り当てます。すべてのアップ オブジェクトの重み値の合計がトラッキング リストの重みアップしきい値を超えている場合、トラッキング リストはアップ状態になります。すべてのダウン オブジェクトの重み値の合計がトラッキング リストの重みダウンしきい値を超えている場合、トラッキング リストはダウン状態になります。

トラック リストの詳細については、「[ブール式を使用したオブジェクト トラッキング リストの設定 \(P.19-6\)](#)」を参照してください。

仮想化のサポート

オブジェクト トラッキングは仮想ルーティング/転送 (VRF) インスタンスをサポートします。デフォルトでは、特に別の VRF を設定しない限り、Cisco NX-OS によりデフォルト VRF が使用されます。Cisco NX-OS はデフォルトで、デフォルト VRF のオブジェクトのルート到達可能ステータスをトラッキングします。別の VRF のオブジェクトをトラッキングする場合は、その VRF のメンバとしてオブジェクトを設定する必要があります (「非デフォルト VRF のオブジェクト トラッキング設定」(P.19-12) を参照)。

詳細については、第 14 章「レイヤ 3 仮想化の設定」を参照してください。

オブジェクト トラッキングのライセンス要件

次の表に、この機能のライセンス要件を示します。

製品	ライセンス要件
Cisco NX-OS	オブジェクト トラッキングにライセンスは不要です。ライセンス パッケージに含まれていない機能はすべて Cisco NX-OS システム イメージにバンドルされており、追加費用は一切発生しません。Cisco NX-OS ライセンス方式の詳細については、『Cisco NX-OS Licensing Guide』を参照してください。

注意事項および制約事項

オブジェクト トラッキング設定時の注意事項および制約事項は、次のとおりです。

- 最大 500 のトラッキング対象オブジェクトをサポートします。
- イーサネット、サブインターフェイス、トンネル、ポート チャネル、ループバック インターフェイス、および VLAN インターフェイスをサポートします。
- HSRP グループごとに 1 つのトラッキング対象オブジェクトをサポートします。

デフォルト設定

表 19-1 に、オブジェクト トラッキング パラメータのデフォルト設定を示します。

表 19-1 デフォルトのオブジェクト トラッキング パラメータ

パラメータ	デフォルト
Tracked Object VRF	デフォルト VRF のメンバ

オブジェクト トラッキングの設定

ここでは、次の内容について説明します。

- 「インターフェイスのオブジェクト トラッキング設定」(P.19-4)
- 「ルート到達可能性のオブジェクト トラッキング設定」(P.19-5)
- 「ブール式を使用したオブジェクト トラッキング リストの設定」(P.19-6)

- 「パーセンテージしきい値を使用したオブジェクト トラッキング リストの設定」 (P.19-7)
- 「重みしきい値を使用したオブジェクト トラッキング リストの設定」 (P.19-8)
- 「オブジェクト トラッキング遅延の設定」 (P.19-10)
- 「非デフォルト VRF のオブジェクト トラッキング設定」 (P.19-12)



(注) Cisco IOS の CLI に慣れている場合、この機能の Cisco NX-OS コマンドは従来の Cisco IOS コマンドと異なる点があるため注意が必要です。

インターフェイスのオブジェクト トラッキング設定

インターフェイスのラインプロトコルまたは IPv4 ルーティングのステータスをトラッキングするように Cisco NX-OS を設定できます。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **track object-id interface interface-type number {ip routing | line-protocol}**
3. (任意) **show track [object-id]**
4. (任意) **copy running-config startup-config**

手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ1	configure terminal Example: switch# configure terminal switch(config)#	コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ2	track object-id interface interface-type number {ip routing line-protocol} Example: switch(config)# track 1 interface ethernet 1/2 line-protocol switch(config-track)#	インターフェイスのトラッキング対象オブジェクトを作成し、トラッキング コンフィギュレーション モードを開始します。object-id の範囲は 1 ~ 500 です。
ステップ3	show track [object-id] Example: switch(config-track)# show track 1	(任意) オブジェクト トラッキング情報を表示します。
ステップ4	copy running-config startup-config Example: switch(config-track)# copy running-config startup-config	(任意) この設定の変更を保存します。

Ethernet 1/2 上でラインプロトコル ステータスのオブジェクト トラッキングを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# track 1 interface ethernet 1/2 line-protocol
```

```
switch(config-track)# copy running-config startup-config
```

Ethernet 1/2 上で IPv4 ルーティング ステートのオブジェクト トラッキングを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# track 2 interface ethernet 1/2 ip routing
switch(config-track)# copy running-config startup-config
```

ルート到達可能性のオブジェクト トラッキング設定

IP ルートの存在および到達可能性をトラッキングするように Cisco NX-OS を設定できます。

手順の概要

1. `configure terminal`
2. `track object-id ip route prefix/length reachability`
3. (任意) `show track [object-id]`
4. (任意) `copy running-config startup-config`

手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ1	<code>configure terminal</code> Example: switch# configure terminal switch(config)#	コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ2	<code>track object-id ip route prefix/length reachability</code> Example: switch(config)# track 2 ip route 192.0.2.0/8 reachability switch(config-track)#	ルートのトラッキング対象オブジェクトを作成し、トラッキング コンフィギュレーション モードを開始します。 <i>object-id</i> の範囲は 1 ~ 500 です。IP のプレフィックス フォーマットは A.B.C.D/length です。length の範囲は 1 ~ 32 です。
ステップ3	<code>show track [object-id]</code> Example: switch(config-track)# show track 1	(任意) オブジェクト トラッキング情報を表示します。
ステップ4	<code>copy running-config startup-config</code> Example: switch(config-track)# copy running-config startup-config	(任意) この設定の変更を保存します。

デフォルト VRF で、IPv4 ルートのオブジェクト トラッキングを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# track 4 ip route 192.0.2.0/8 reachability
switch(config-track)# copy running-config startup-config
```

ブール式を使用したオブジェクト トラッキング リストの設定

複数のトラッキング対象オブジェクトを含むオブジェクト トラッキング リストを設定できます。トラッキング対象リストには 1 つまたは複数のオブジェクトが含まれます。ブール式では、「and」または「or」演算子を使用して 2 種類の演算を実行できます。たとえば、「and」演算子を使用して 2 つのインターフェイスをトラッキングする場合、「アップ」は両方のインターフェイスがアップであることを意味し、「ダウン」はどちらかのインターフェイスがダウンであることを意味します。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **track track-number list boolean {and | or}**
3. **object object-number [not]**
4. (任意) **show track**
5. (任意) **copy running-config startup-config**

手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ1	configure terminal Example: switch# configure terminal switch(config)#	コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ2	track track-number list boolean {and or} Example: switch(config)# track 1 list boolean and switch(config-track)#	トラッキング対象リスト オブジェクトを設定し、トラッキング コンフィギュレーション モードを開始します。トラッキング対象リストのステートがブール式に基づいて決まることを指定します。キーワードは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • and : すべてのオブジェクトがアップの場合にリストがアップになり、1 つ以上のオブジェクトがダウンの場合にリストがダウンになることを指定します。たとえば、2 つのインターフェイスをトラッキングする場合、「アップ」は両方のインターフェイスがアップであることを意味し、「ダウン」はどちらかのインターフェイスがダウンであることを意味します。 • or : 少なくとも 1 つのオブジェクトがアップの場合にリストがアップになることを指定します。たとえば、2 つのインターフェイスをトラッキングする場合、「アップ」はどちらかのインターフェイスがアップであることを意味し、「ダウン」は両方のインターフェイスがダウンであることを意味します。 track-number の範囲は 1 ~ 500 です。

	コマンド	目的
ステップ 3	object <i>object-id</i> [not] Example: switch(config-track)# object 10	トラッキング リストにトラッキング対象オブジェクトを追加します。 <i>object-id</i> の範囲は 1 ~ 500 です。オプションの not キーワードを指定すると、トラッキング対象オブジェクトのステータスが否定されます。 (注) 例では、オブジェクト 10 がアップのときに、トラッキング対象リストがオブジェクト 10 をダウンとして検出します。
ステップ 4	show track Example: switch(config-track)# show track	(任意) オブジェクト トラッキング情報を表示します。
ステップ 5	copy running-config startup-config Example: switch(config-track)# copy running-config startup-config	(任意) この設定の変更を保存します。

次に、複数のオブジェクトを含むトラッキング リストをブール「and」で設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# track 1 list boolean and
switch(config-track)# object 10
switch(config-track)# object 20 not
```

パーセンテージしきい値を使用したオブジェクト トラッキング リストの設定

パーセンテージしきい値を含むオブジェクト トラッキング リストを設定できます。トラッキング対象リストには 1 つまたは複数のオブジェクトが含まれます。トラッキング リストがアップ状態になるには、アップ オブジェクトのパーセンテージがトラッキング リストに設定されたパーセントしきい値を超えている必要があります。たとえば、トラッキング対象リストに 3 つのオブジェクトが含まれており、アップしきい値を 60 % に設定した場合は、2 つのオブジェクト (全オブジェクトの 66 %) がアップ状態になるまで、トラッキング リストがアップ状態になりません。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **track track-number list threshold percentage**
3. **threshold percentage up up-value down down-value**
4. **object object-number**
5. (任意) **show track**
6. (任意) **copy running-config startup-config**

手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ1	configure terminal Example: switch# configure terminal switch(config)#	コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ2	track track-number list threshold percentage Example: switch(config)# track 1 list threshold percentage switch(config-track)#	トラッキング対象リスト オブジェクトを設定し、トラッキング コンフィギュレーション モードを開始します。トラッキング対象リストのステートが設定されたしきい値パーセントに基づいて決まることを指定します。 <i>track-number</i> の範囲は 1 ~ 500 です。
ステップ3	threshold percentage up up-value down down-value Example: switch(config-track)# threshold percentage up 70 down 30	トラッキング対象リストのしきい値パーセントを設定します。指定できる範囲は 0 ~ 100% です。
ステップ4	object object-id Example: switch(config-track)# object 10	トラッキング リストにトラッキング対象オブジェクトを追加します。 <i>object-id</i> の範囲は 1 ~ 500 です。
ステップ5	show track Example: switch(config-track)# show track	(任意) オブジェクト トラッキング情報を表示します。
ステップ6	copy running-config startup-config Example: switch(config-track)# copy running-config startup-config	(任意) この設定の変更を保存します。

次に、アップしきい値が 70 % でダウンしきい値が 30 % のトラッキング リストを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# track 1 list threshold percentage
switch(config-track)# threshold percentage up 70 down 30
switch(config-track)# object 10
switch(config-track)# object 20
switch(config-track)# object 30
```

重みしきい値を使用したオブジェクト トラッキング リストの設定

重みしきい値を含むオブジェクト トラッキング リストを設定できます。トラッキング対象リストには 1 つまたは複数のオブジェクトが含まれます。トラッキング リストがアップ ステートになるには、アップ オブジェクトの重み値の合計がトラッキング リストに設定されたアップ重みしきい値を超えて

いる必要があります。たとえば、トラッキング対象リストに重み値がデフォルトの 10 である 3 つのオブジェクトがあり、アップしきい値を 15 に設定した場合、トラッキングリストがアップ状態になるには、2 つのオブジェクトがアップ状態になる（重み値の合計が 20 になる）必要があります。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **track track-number list threshold weight**
3. **threshold weight up up-value down down-value**
4. **object object-number weight value**
5. (任意) **show track**
6. (任意) **copy running-config startup-config**

手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ 1	configure terminal Example: switch# configure terminal switch(config)#	コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	track track-number list threshold weight Example: switch(config)# track 1 list threshold weight switch(config-track)#	トラッキング対象リスト オブジェクトを設定し、トラッキング コンフィギュレーション モードを開始します。トラッキング対象リストのステータスが設定されたしきい値重みに基づいて決まることを指定します。 <i>track-number</i> の範囲は 1 ~ 500 です。
ステップ 3	threshold weight up up-value down down-value Example: switch(config-track)# threshold weight up 30 down 10	トラッキング対象リストのしきい値重みを設定します。指定できる範囲は 1 ~ 255 です。
ステップ 4	object object-id weight value Example: switch(config-track)# object 10 weight 15	トラッキング リストにトラッキング対象オブジェクトを追加します。 <i>object-id</i> の範囲は 1 ~ 500 です。 <i>value</i> の範囲は 1 ~ 255 です。デフォルトの重み値は 10 です。
ステップ 5	show track Example: switch(config-track)# show track	(任意) オブジェクト トラッキング情報を表示します。
ステップ 6	copy running-config startup-config Example: switch(config-track)# copy running-config startup-config	(任意) この設定の変更を保存します。

次に、トラッキング リストのアップ重みしきい値を 30、ダウンしきい値を 10 にそれぞれ設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# track 1 list threshold weight
```

```
switch(config-track)# threshold weight up 30 down 10
switch(config-track)# object 10 weight 15
switch(config-track)# object 20 weight 15
switch(config-track)# object 30
```

この例では、オブジェクト 10 とオブジェクト 20 がアップの場合にトラッキング リストがアップになり、3 つのオブジェクトがすべてダウンの場合にトラッキング リストがダウンになります。

オブジェクト トラッキング遅延の設定

トラッキング対象オブジェクトまたはオブジェクト トラッキング リストに対して、オブジェクトまたはリストがステートの変化を開始したときに適用する遅延を設定できます。トラッキング対象オブジェクトまたはトラッキング リストは、ステートの変化が発生したときに遅延タイマーを開始しますが、遅延タイマーが切れるまでステートの変化を認識しません。遅延タイマーが切れると、Cisco NX-OS は再びオブジェクトのステートを確認し、オブジェクトまたはリストが現在も変更されたステートのままだった場合にだけステートの変化を記録します。オブジェクト トラッキングは遅延タイマーが切れる前の中間的なステートの変化を無視します。

たとえば、インターフェイス ライン プロトコルのトラッキング対象オブジェクトがアップ ステートであり、ダウン遅延が 20 秒に設定されている場合は、ライン プロトコルがダウンになると遅延タイマーが開始します。20 秒後にライン プロトコルがダウンになっていなければ、このオブジェクトはダウン ステートになりません。

トラッキング対象オブジェクトまたはトラッキング リストには、独立したアップ遅延とダウン遅延を設定できます。遅延を削除すると、オブジェクト トラッキングからアップ遅延とダウン遅延の両方が削除されます。

遅延は任意の時点で変更できます。オブジェクトまたはリストがトリガーされたイベントから遅延タイマーをすでにカウントしている場合は、次のようにして新しい遅延が計算されます。

- 新しい設定値が古い設定値より小さい場合は、新しい値でタイマーが開始します。
- 新しい設定値が古い設定値より大きい場合は、新しい設定値から現在のタイマーのカウントダウンを引き、古い設定値を引いたものがタイマーになります。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **track object-id {parameters}**
3. **track track-number list {parameters}**
4. **delay {up up-time [down down-time] | down down-time [up up-time]}**
5. (任意) **show track**
6. (任意) **copy running-config startup-config**

手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ 1	configure terminal Example: switch# configure terminal switch(config)#	コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	track object-id {parameters} Example: switch(config)# track 2 ip route 192.0.2.0/8 reachability switch(config-track)#	ルートのトラッキング対象オブジェクトを作成し、トラッキング コンフィギュレーション モードを開始します。 <i>object-id</i> の範囲は 1 ~ 500 です。IP のプレフィックス フォーマットは A.B.C.D/length です。length の範囲は 1 ~ 32 です。
ステップ 3	track track-number list {parameters} Example: switch(config)# track 1 list threshold weight switch(config-track)#	トラッキング対象リスト オブジェクトを設定し、トラッキング コンフィギュレーション モードを開始します。トラッキング対象リストのステータスが設定されたしきい値重みに基づいて決まることを指定します。 <i>track-number</i> の範囲は 1 ~ 500 です。
ステップ 4	delay {up up-time [down down-time] down down-time [up up-time]} Example: switch(config-track)# delay up 20 down 30	オブジェクトの遅延タイマーを設定します。指定できる範囲は 0 ~ 180 秒です。
ステップ 5	show track Example: switch(config-track)# show track 3	(任意) オブジェクト トラッキング情報を表示します。
ステップ 6	copy running-config startup-config Example: switch(config-track)# copy running-config startup-config	(任意) この設定の変更を保存します。

次に、ルートのオブジェクト トラッキングを設定し、遅延タイマーを使用する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# track 2 ip route 209.165.201.0/8 reachability
switch(config-track)# delay up 20 down 30
switch(config-track)# copy running-config startup-config
```

次に、トラッキング リストのアップ重みしきい値を 30、ダウンしきい値を 10 にそれぞれ設定し、遅延タイマーを使用する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# track 1 list threshold weight
switch(config-track)# threshold weight up 30 down 10
switch(config-track)# object 10 weight 15
switch(config-track)# object 20 weight 15
switch(config-track)# object 30
switch(config-track)# delay up 20 down 30
```

次に、インターフェイスがシャットダウンする前後の show track コマンドの出力に表示された遅延タイマーの例を示します。

```
switch(config-track)# show track
```

```

Track 1
  Interface loopback1 Line Protocol
  Line Protocol is UP
  1 changes, last change 00:00:13
  Delay down 10 secs

switch(config-track)# interface loopback 1
switch(config-if)# shutdown
switch(config-if)# show track
Track 1
  Interface loopback1 Line Protocol
  Line Protocol is delayed DOWN (8 secs remaining)<----- delay timer counting down
  1 changes, last change 00:00:22
  Delay down 10 secs

```

非デフォルト VRF のオブジェクト トラッキング設定

特定の VRF でオブジェクトをトラッキングするように Cisco NX-OS を設定できます。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **track object-id ip route prefix/length reachability**
3. **vrf member vrf-name**
4. (任意) **show track [object-id]**
5. (任意) **copy running-config startup-config**

手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ1	configure terminal Example: switch# configure terminal switch(config)#	コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ2	track object-id ip route prefix/length reachability Example: switch(config)# track 2 ip route 192.0.2.0/8 reachability switch(config-track)#	ルートのトラッキング対象オブジェクトを作成し、トラッキング コンフィギュレーション モードを開始します。 <i>object-id</i> の範囲は 1 ~ 500 です。IP のプレフィックスフォーマットは A.B.C.D/length です。 <i>length</i> の範囲は 1 ~ 32 です。
ステップ3	vrf member vrf-name Example: switch(config-track)# vrf member Red	設定されたオブジェクトのトラッキングに使用する VRF を設定します。

	コマンド	目的
ステップ 4	show track [<i>object-id</i>] Example: switch(config-track)# show track 3	(任意) オブジェクト トラッキング情報を表示します。
ステップ 5	copy running-config startup-config Example: switch(config-track)# copy running-config startup-config	(任意) この設定の変更を保存します。

ルートのオブジェクト トラッキングを設定し、VRF Red を使用して、そのオブジェクトの到達可能性情報を調べる例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# track 2 ip route 209.165.201.0/8 reachability
switch(config-track)# vrf member Red
switch(config-track)# copy running-config startup-config
```

トラッキング対象オブジェクト 2 を変更し、VRF Red の代わりに VRF Blue を使用して、そのオブジェクトの到達可能性情報を調べる例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# track 2
switch(config-track)# vrf member Blue
switch(config-track)# copy running-config startup-config
```

オブジェクト トラッキングの設定確認

オブジェクト トラッキングの設定情報を表示するには、次のいずれかの作業を行います。

コマンド	目的
show track [<i>object-id</i>] [<i>brief</i>]	1 つまたは複数のオブジェクトについて、オブジェクト トラッキング情報を表示します。
show track [<i>object-id</i>] interface [<i>brief</i>]	インターフェイススペースのオブジェクト トラッキング情報を表示します。
show track [<i>object-id</i>] ip route [<i>brief</i>]	IPv4 ルートベースのオブジェクト トラッキング情報を表示します。

オブジェクト トラッキングの設定例

次に、ルート到達可能性のオブジェクト トラッキングを設定し、VRF Red を使用してそのルートの到達可能性情報を調べる例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# track 2 ip route 209.165.201.0/8 reachability
switch(config-track)# vrf member Red
switch(config-track)# copy running-config startup-config
```

関連資料

オブジェクトトラッキングの関連情報については、次の項目を参照してください。

- [第 14 章「レイヤ 3 仮想化の設定」](#)
- [第 17 章「HSRP の設定」](#)

その他の関連資料

オブジェクトトラッキングの実装に関連する詳細情報については、次の項を参照してください。

- 「[関連資料](#)」(P.19-14)
- 「[標準](#)」(P.19-14)

関連資料

関連項目	マニュアル名
オブジェクトトラッキング CLI コマンド	『Cisco Nexus 3000 Series Command Reference,』

標準

標準	タイトル
この機能でサポートされる新規または改訂された標準規格はありません。また、この機能による既存の標準規格サポートの変更はありません。	—

オブジェクトトラッキング機能の履歴

表 19-2 は、この機能のリリースの履歴です。

表 19-2 オブジェクトトラッキング機能の履歴

機能名	リリース	機能情報
オブジェクトトラッキング	5.0(3)U1(1)	この機能が導入されました。